

緑内障診断の“マスト・モダリティ” ～視神経乳頭写真をじっくり見ましょう～

2015年9月12日(土) 8:00～8:50 第2会場 (ウイングあいち 5F 小ホール1)

座長



谷戸 正樹 先生
松江赤十字病院 眼科部長

座長のことば

新規の患者さんを緑内障と診断して治療の要否を決定するまでに、どうしても欠かせない“マスト”の検査は何か。隅角検査と眼圧測定は、緑内障病型の決定に必須ですし、視野検査は病気の進行度の判定に必須です。その前に、すべては眼底を診て、視神経乳頭とその周囲に“緑内障らしい所見”があるかどうかを確認するところからスタートします。じっくり眼底を見るための“マスト・モダリティ”が眼底カメラによる視神経乳頭撮影です。特に、コーワ無散瞳ステレオ眼底カメラ (nonmydWX) を使用することで、クオリティの高い視神経乳頭の3次元観察が忙しい日常診療の中でも容易に可能となります。

本セミナーではお二人の緑内障画像診断のスペシャリストにご登壇頂きます。

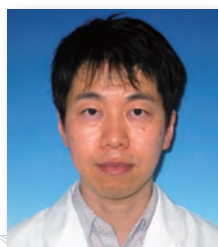
横山悠先生には、ステレオ眼底写真と画像解析ソフトウェアをベースとした臨床研究The Glaucoma Stereo Analysis Study (GSAS)から見てきた、視神経乳頭形状細分化の臨床的有用性についてお話し頂きます。

溝上志朗先生には、OCTの高性能化により近年話題となっている前視野障害期緑内障 (PPG) の診断においても眼底写真をじっくり見ることが“マスト”であることを実際の症例を交えながらお話し頂きます。

明日からの臨床にすぐに役に立つ本セミナーに是非ご参加下さい。

講演 1

ステレオ眼底カメラを用いた緑内障性視神経乳頭の客観的評価



横山 悠 先生
東北大学大学院
医学系研究科眼科学分野 助教

講演 2

ステレオ眼底写真とOCTを活用した緑内障早期診断の実際



溝上 志朗 先生
愛媛大学大学院医学系研究科
視機能再生学講座 准教授

